

# コンクリート面及びALCパネル面

## 7章15節: マスチック塗材塗り ダイニットGPペイント

公共仕様  
DNT-改修・15-1-05

### 使用材料一覧表

一般名称	商品名	ホルムアルデヒド 放散等級	希釈剤
1 マスチックC用シーラー	ダイニットマスチックCシーラー	-	水道水
2 マスチック塗材C	ダイニットマスチックC	-	水道水
3 つや有合成樹脂エマルジョンペイント	ダイニットGPペイント	-	水道水

### 塗装仕様

表7.2.5 コンクリート面及びALCパネル面の素地ごしらえ【RB種】

工程	塗料その他			面の処理
	規格番号	規格名称	種類	
1 既存塗膜の除去	-			ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化し弱い部分を除去する。
2 汚れ、付着物除去	-			素地を傷付けないようにワイヤーブラシ等により、除去する。
3 ひび割れ部の補修	-			特記による。
4 下地調整塗り	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1又はC-2	既存の塗膜の除去部分の不陸を調整する。
	JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
5 研磨紙すり	研磨紙P120～220			乾燥後、表面を平らに研磨する。

- (注) 1.ALCパネル面の場合は、工程4の前に合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。  
 2.合成樹脂エマルジョンパテは、外部に用いない。  
 3.工程4の建築用下地調整塗材のC-1、C-2の使い分けは、4.6.4[下地調整](a)及び(c)による。  
 4.新規に塗装を行う場合は、RA種とし、工程1に代えて素地を十分に乾燥させて、工程3を省略する。

表7.15.1 マスチック塗材塗り【B種】

工程	商品名	色相	混合比率 (重量比)	希釈率(%) (重量比)	塗装方法	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装間隔 (20 )
1 下地押え	ダイニット マスチックC シーラー	透明	-	0	マスチック ローラー	0.12	3時間以上
2 塗材塗り	ダイニット マスチックC	-	主材10: 混和液4	0	マスチック ローラー	1.80	16時間以上
3 仕上材塗り	ダイニット GPペイント	各色	-	0～10	刷毛 ローラー	0.20	5時間以上
4 仕上材塗り	ダイニット GPペイント	各色	-	0～10	刷毛 ローラー	0.20	-

(注) 下地調整の種類は、塗料その他の欄による。

#### 7.2.6 コンクリート面及びALCパネル面の下地調整

コンクリート面及びALCパネル面の下地調整は、表7.2.5により、種別は特記による。特記がなければ、RB種とする。

#### 7.15.2 マスチック塗材塗り

- (a)マスチック塗材塗りは、表7.15.1により、種別は特記による。  
 (b)仕上げ塗りは、つや有合成樹脂エマルジョンペイントとし、種類及び適用は特記による。  
 (c)マスチック塗材は、製造所において調合されたものとする。  
 (d)マスチック塗材は、施工に先立ち、かくはん機を用いてかくはんする。  
 (e)塗付けは、下地にくばり塗りを行ったのち、均し塗りを行い、次のローラー転圧によりパターン付けをして一段塗りで行って仕上げる。  
 (f)塗継ぎ幅は、800mm程度を標準として、塗継ぎ部が目立たないように、むらなく仕上げる。  
 (g)パターンの不ぞろいは、追掛塗をし、むら直しを行って調整する。

#### 注意事項

- \* 上記塗付け量は国土交通省 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)平成22年版に掲載されている数値です。  
 そのため実際の塗付け量は被塗物の形状や、塗装方法、環境によって増減することがあります。  
 \* 商品の詳細、塗装上の注意事項につきましては、カタログ、単品説明書などを参照ください。

# コンクリート面及び押出成形セメント板面

## 7章15節: マスチック塗材塗り ダイニットGPペイント

公共仕様  
DNT-改修・15-2-01

### 使用材料一覧表

一般名称	商品名	ホルムアルデヒド 放散等級	希釈剤
1 マスチックC用シーラー	ダイニットマスチックCシーラー	-	水道水
2 マスチック塗材C	ダイニットマスチックC	-	水道水
3 つや有合成樹脂エマルジョンペイント	ダイニットGPペイント	-	水道水

### 塗装仕様

表7.2.6 コンクリート面及び押出成形セメント面の下地調整 [RB種]

工程	塗料その他			面の処理
	規格番号	規格名称	種類	
1 既存塗膜の除去	-			ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化し脆弱な部分を除去する。
2 汚れ、付着物除去	-			素地を傷付けないようにワイヤブラシ等により、除去する。
3 ひび割れ部の補修	-			特記による。
4 下地調整塗り	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1又はC-2	既存の塗膜の除去部分の不陸を調整する。
	JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
5 吸込止め	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂ワニス	2液形エポキシ樹脂ワニス	全面に塗り付ける。

- (注) 1. 押出成形セメント板面の場合は、工程4を省略する。  
 2. 2液形エポキシ樹脂ワニス、上塗り塗料製造所の指定するものとする。  
 3. 新規に塗装を行う場合は、RA種とし、工程1に代えて素地を十分に乾燥させて、工程3を省略する。  
 4. JASS 18 M-201は、日本建築学会材料規格である。  
 5. 屋内で現場塗装する場合、工程5の吸込止め使用する材料は、上塗り塗料製造所の指定する水性塗料とする。

表7.15.1 マスチック塗材塗り [B種]

工程	商品名	色相	混合比率 (重量比)	希釈率(%) (重量比)	塗装方法	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装間隔 (20 )
1 下地押え	ダイニット マスチックC シーラー	透明	-	0	マスチック ローラー	0.12	3時間以上
2 塗材塗り	ダイニット マスチックC	-	主材10: 混和液4	0	マスチック ローラー	1.80	16時間以上
3 仕上材塗り	ダイニット GPペイント	各色	-	0~10	刷毛 ローラー	0.20	5時間以上
4 仕上材塗り	ダイニット GPペイント	各色	-	0~10	刷毛 ローラー	0.20	-

- (注) 1. 素地ごしらえの種類は、塗料その他の欄による。  
 2. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表7.2.6によるRB種とする。  
 7.2.6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の下地調整  
 コンクリート面及び押出成形セメント面の下地調整は表7.2.6による。  
 ただし、種別は、塗り工法に応じた節の規定による。  
 7.15.2 マスチック塗材塗り  
 (a) マスチック塗材塗りは、表7.15.1により、種別は特記による。  
 (b) 仕上げ塗りは、つや有合成樹脂エマルジョンペイントとし、種類及び適用は特記による。  
 (c) マスチック塗材は、製造所において調合されたものとする。  
 (d) マスチック塗材は、施工に先立ち、かくはん機を用いてかくはんする。  
 (e) 塗付けは、下地にくばり塗りを行ったのち、均し塗りを行い、次のローラー転圧によりパターン付けをして一段塗りで仕上げる。  
 (f) 塗継ぎ幅は、800mm程度を標準として、塗継ぎ部が目立たないように、むらなく仕上げる。  
 (g) パターンの不ぞろいは、追掛塗し、むら直しを行って調整する。

#### 注意事項

- \* 上記塗付け量は国土交通省 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)平成22年版に掲載されている数値です。  
 そのため実際の塗付け量は被塗物の形状や、塗装方法、環境によって増減することがあります。  
 \* 商品の詳細、塗装上の注意事項につきましては、カタログ、単品説明書などを参照ください。